

～子どもたちや教師自身が光り輝くことを願って～

この資料は、東部教育事務所（現 東部教育局）開設時に、若い教師に向けた熱いメッセージとして作成したものです。時代は変わっても教師として大切にしてほしいこと、特に若い先生方に知っておいてほしいことを紹介します。

< 内容 >

1 教師の基本姿勢

- ・児童生徒理解に努める
- ・教育活動を絶えず見直し工夫する
- ・他の教職員と連携し、組織の一員として働く意識をもつ
- ・社会人としての自覚を常にもつ

2 仲間づくり

- ・児童生徒同士のかかわりを深める工夫に努める
- ・児童生徒の自治的活動を広げる
- ・児童生徒の情操や意欲を育てる教室環境づくりに努める

3 授業づくり

- ・児童生徒の実態を踏まえた把握した教材研究に努める
- ・学習理解のための学習習慣を育てる
- ・共に高まり合う学習集団をつくる

1 教師の基本姿勢

児童生徒理解に努める

児童生徒の特性、能力、興味・関心、さらにその成育歴、生活環境、交友関係、発達段階、悩み等はさまざまです。したがって、児童生徒一人一人の特性や課題を十分理解することは何より大切なこととなります。一人一人の特性や課題を把握した上で、それらが児童生徒の人格形成等にどうかかわるのかを整理することが児童生徒理解です。正確で十分な児童生徒理解があってはじめて、個に応じた指導や支援が可能となります。そのためには、毎日の学校生活の中で、教師がしっかりと児童生徒と向き合い、児童生徒の話を聞くことが大切です。

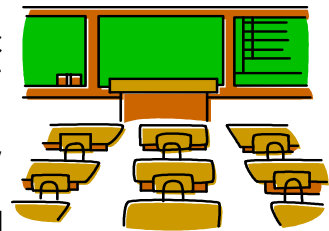
< 例えば >

・朝の会で、児童生徒一人一人の顔を見てみましょう。

朝一番に会う児童生徒は、どんな表情をしていますか。うれしそうな顔、どことなく元気がない顔、まだ眠そうな顔等、児童生徒の表情はさまざまですね。

朝、教室に入って、児童生徒の顔を見ながら、一人一人の調子の良し悪しを見取りたいものです。

そして、いつもと様子が違う児童生徒には、朝の会後か次の休憩時間に「いつもと違って元気がないけどどうしたの。」と様子を聞いたり、元気づける言葉をかけたりしてみてください。児童生徒は態度には出さないかもしれませんが、自分のことを心にとめてもらっていることを感じるはずです。教師の心のこもったひと声が、その児童生徒の大きな心の支えにつながります。



・児童生徒一人一人に積極的にかかわりましょう。

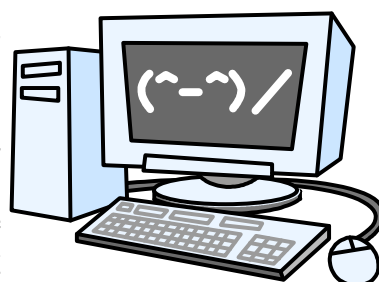
廊下で児童生徒とすれ違うときに明るく声をかけたり、給食や休憩時間にできるだけ児童生徒に話しかけたりすると、児童生徒との結びつきが強くなり、教師との人間関係ができてきます。

特に気になる児童生徒に対しては、声かけに努めたり、他の児童生徒から情報を集めたりして、その子にあった指導や支援の仕方を工夫していきましょう。

・児童生徒が話しかけてきたときは、必ず顔を見て話をしましょう。

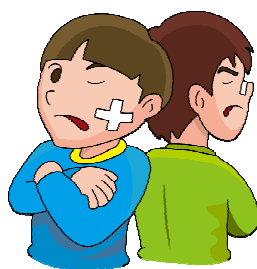
児童生徒が職員室に訪ねてきてても、話も聞かず「今、忙しいから、また来てくれないか。」とか、「悪いけど、後でね。」といった対応をしていませんか。なぜ訪ねてきたのか、何を自分に求めているのかを考える心のゆとりがほしいものです。

どんなときでも、仕事の手を止め、児童生徒の表情を見ながら話を聞きたいものです。どうしても手が放せないときは、「今これをしていないといけないので、10分後にまた来てね。」または、「何時分に相談室に来てね。」等、誠意を持って対応することが、児童生徒と教師との信頼関係を確かなものにしていきます。



・児童生徒が問題を起こしたとき、その背景にある思いを聞こうとしていますか。

問題行動に対しては、生徒指導担当を中心に具体的な対応を早急にとることが大切です。それと同時に、その問題を引き起こした児童生徒の背景にある思いは何かをしっかりと把握することが、根本的な解決につながります。「友人関係、家族関係、教師との関係等何があったのか」を、児童生徒が自分の思いを語りやすい雰囲気の中でじっくり聞くことです。とにかくあせらず、児童生徒が胸の内を出すようになるまでじっくりつきあうことです。



あるスクールカウンセラーが、次のように話していました。「先生方は、問題が起こったとき、対応のことばかり考えておられる。なぜ問題を起こしたのか、何がそうさせたのかを考えないと。」それがその子を理解することなのです。

教育活動を絶えず見直し工夫する

児童生徒は、学習の内容が分からないと、学校に来る楽しさが半減します。教師である以上、学習内容を理解させ身につけさせることは、重要な使命です。そのために、教材研究を十分に、指導に自信と余裕を持つことが大切です。

このことは学校内の教育活動すべてに言えます。日々の教育活動で児童生徒が生き生きとするためにどんな工夫が必要か、どんな活動を仕組んだらいいかを常に見直し、教師集団で話し合うことが大切です。

< 例えば >

・どのような力を身につけさせようとしているのかを考えて教材研究をしていますか。

教材研究をする際には、児童生徒の実態を十分に把握し、どのような力を身につけさせるのかという目標と、目の前の児童生徒との両方を見比べつつ実践することが大切です。この活動は、こんな意味があり、こんな力につながっていくのだということが言えるようになってほしいものです。

・学校教育目標を意識しながらすべての教育活動に取り組みましょう。

学校のすべての教育活動は、学校教育目標を具現化するためのものです。教育目標、今年度の重点指導項目等を目につくところに貼るなどして、それぞれの教育活動が教育目標とどのようにつながるのかを常に確認しながら指導にあたきましょう。

学年末の児童生徒のめざす姿と今取り組んでいるものを絶えず見比べながら実践すると、計画的な指導ができます。

・1年間の指導内容を見直し、実りのある年間指導計画を立てていますか。

教科、学級経営等の年間指導計画を常に意識していますか。1年間を通して児童生徒にどんな力をつけさせるのか、1年後の児童生徒の具体的な姿をしっかりと考えることが大切です。月ごとに「1年後の姿に対して今はどうか」、「計画的に教育活動が実践されているか」等を点検しながら1年後の、目標に向かって取り組みましょう。

～学級経営を見直そう～

学級は学校における教育活動のための最も基礎的な単位となる集団である。ところが今、学級集団の持つ力が十分発揮されていない現状があるように感じる。多くの学級であらゆる問題に対して、教師が子どもたちに一对一の関係で指導する域から抜け出していないのではなからうか。また、子どもたちに所属集団への意識を高揚させながら、集団を高めるためにどう力を発揮するのかを教え育てていないのではなからうか。このような状況が少し気になるのである。

学級担任は、学級経営において明確な「目標」を持ち、「計画」「実践」「評価」し、今後の指導に「反映」させるといふ、一連のマネジメントによる「経営」観を導入して、子どもたちの主体性を尊重した自律的な学級集団の育成を進めていく必要がある。

東部教育事務所長 木下法広(Tobu通信 平成14年7月31日より)

ちょっと心温まる情報として

【学校の風景から】...暮らしの基本は心の基本...

整然とした下足の写真を置き、そのすがすがしさを目で感じ取らせる。『心がみだれると、はきものもみだれる。はきものがととのうと心もととのう。』の言葉を添え、自分の行動には、いつも自分の心が写し出されていることを知らせる。

児童の生活のすみずみまで行き渡った“指導者の目”が感じられる。自分のとった行動から今の自分の姿をまっすぐに見つけてほしい...ズックの入れ方も、その示し方によっては、児童の生き方を考えさせる教材となる。



他の教職員と連携し、組織の一員として働く意識をもつ

学校は、教職員と児童生徒の生活の場です。教育活動がスムーズに行われ、みんなが気持ちよく生活していくために、まず教職員一人一人が役割を果たし、協力し合い、支え合って活動していくことが大切です。

< 例えば >

・学校で起こったことは、どんな小さなことでも「ほう・れん・そう」をしていますか。

指導に自信がつくと、「すべてを自分だけでやってみせる。」「こんなことは他の先生に相談しなくてもよい。」といった考えをもちがちです。こうした考え方だと、他の教職員と協力ができず、児童生徒の指導に大きな影響を及ぼすこととなります。

教育活動は一人で行えるものではありません。学級や担当する分掌の仕事を一人で抱え込まないように、学年主任・先輩教員・教務主任に「ほう・れん・そう（報告・連絡・相談）」しましょう。特に困っていること、不安なことはまず相談することです。

・指導する教師の判断基準の違いによって、児童生徒に不信感を抱かせていませんか。

服装や持ち物などの生活のきまりについて、教師の個人的な判断で児童生徒に指導することは、児童生徒との信頼関係、教職員間の信頼関係に亀裂を生むこととなります。教職員でよく話し合い、保護者と連携をとり、一つ一つ確認しながら指導することが、児童生徒や保護者への信頼につながります。

・他の教職員のよさを見る努力をしていますか。

他の教職員のよいところを自分に取り入れる努力をし、他の教職員の意見には素直に耳を傾け、「教え合う」「学び合う」「育ち合う」関係になるように努めましょう。例えば、全体指導の仕方、児童生徒の発言の引き出し方、学級掲示の仕方等、学びとすることはたくさんあります。

『学校事務職員ががんばっています』

平成14年4月、「鳥取県公立小中養護学校事務職員研究会」が立ち上げられました。これは、学校事務についてより一層研究を深め、事務職員としての高い専門性を身につけ、積極的に学校運営に参画していこうとするもので、学校事務職員の皆さんの熱い思いを感じています。

県レベルでの研究はもちろんのこと、東部地区、市町村、あるいは中学校区でと、あらゆる場面で自分自身を磨き、がんばっておられます。平成13年に開催した「事務職員セミナー」では、参加された方から様々な意見をいただきました。事務職員の立場から、学校運営の一翼を担い、がんばっておられます。

こうした学校事務職員、学校主事、事務職員、図書館司書等の先生方のがんばりが円滑な学校教育の大きな支えになっています。

東部教育事務所長 木下法広(Tobu通信 平成14年7月31日より)

社会人としての自覚を常にもつ

学校という職場は、教師と児童生徒が、教え・教えられる関係にあり、一般的な社会とは違った面を持っています。そのことをしっかり認識して、場所や状況に応じた態度や行動を心がけましょう。

最近「モデルなき社会」と言われますが、教師は児童生徒にとって最も身近な大人のモデルであることを自覚しましょう。

< 例えば >

・状況に応じたふさわしい服装をしていますか。

授業時間、校外活動の時間、研修や保護者との懇談時は、相手に失礼のないよう服装を整えていますか。教職とは人とのかかわりを大切にしたい仕事です。常識ある服装が大切です。また、児童生徒も、教職員の身なりにはいつも注目しています。

・訪問者の立場に立った対応を心がけていますか。

児童生徒には「お客様にあいさつをしましょう。」と指導していながら、教師自身はどうでしょう。学校、特に職員室は、訪問者にとって入りにくいものです。「こんにちは。」「どのようなご用件でしょうか。」というような声かけが大切です。「おはようございます。」「さようなら。」といったあいさつを教師自らが行ったり、電話の応対に気をつけたりするなど、訪問された方への丁寧な対応に心がけましょう。

・児童生徒にとって大人のモデルになろうとしていますか。

教師は家族以外の最も身近な大人の一人です。大人のモデルとして児童生徒に生活面や行動面の模範を示すことは大切です。丁寧な言葉遣い、時間を守ること、清潔な服装等に気をつけましょう。

・地域社会の一員という意識をもちましょう。

地域で一住民としての役割を果たしていますか。忙しいのは、企業に勤める方も同じです。町内会の行事や会合等に積極的に参加するなど、地域とのかかわりをもって生活していきましょう。

